

サツマイモでナカジロシタバの発生が多くなっています！ 早めに圃場を観察し、防除適期を逃さないようにしましょう。

ナカジロシタバは、多発生するとサツマイモの葉の大部分を食害し、早期から発生すると収量や品質の低下につながることがあります。また、サツマイモの葉を食べつくした後、餌を求めて移動する際に民家等に侵入し、不快害虫として問題になることもあるので注意が必要です。

[現在の発生状況]

- ① 6月下旬現在、病害虫防除所の調査圃場における被害つる先率（本年値 12.8%、平年値 2.1%）は平年より高く（図1）、寄生虫数（本年値 1.4頭、平年値 0.1頭）は平年より多い（図2）。
- ② 例年、被害つる先率は8月から9月にかけて急激に増加するので、今後も平年より高く推移する可能性がある（図1）。

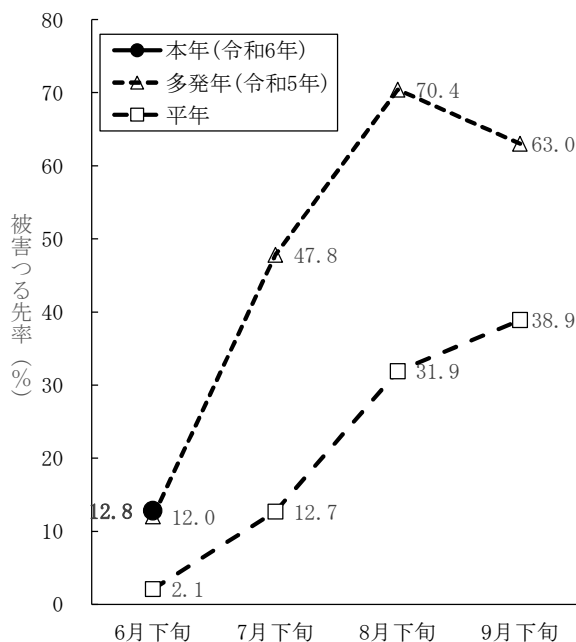


図1 ナカジロシタバの被害つる先率

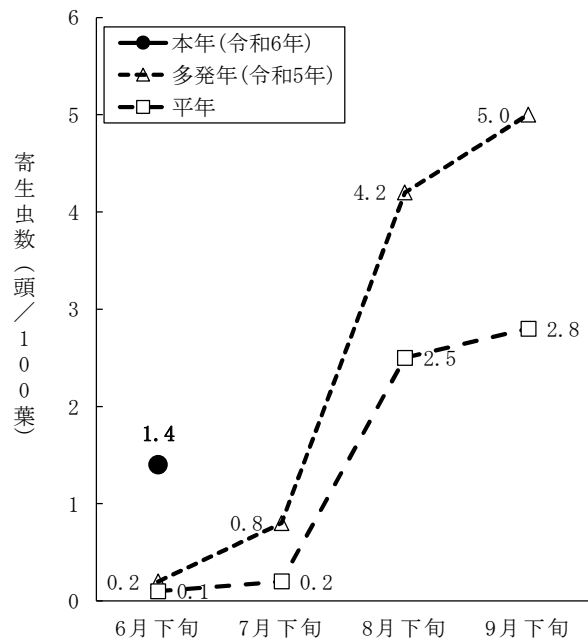


図2 ナカジロシタバの寄生虫数

※調査は県央地域2地点、鹿行地域3地点で実施した。

[ナカジロシタバの生態等]

- ① ナカジロシタバは、幼虫がサツマイモの葉を食害する。若齢幼虫はつる先の若い葉を好んで食害し、老齢幼虫になると摂食量が増えて急激に被害が拡大する。多発すると、短期間で葉脈・葉柄だけを残して葉を食べつくすこともあり、サツマイモの収量・品質の低下につながる。
- ② 例年、年3回発生し、発生量は8月以降に発生する第3世代幼虫が最も多くなる。

[防除対策]

- ① 老齢幼虫になると薬剤の防除効果が劣るので、若齢～中齢幼虫の時期（つる先や上位葉に丸く穴の開いた葉が散見される時期（写真1、2））の防除に努める。
- ② 本年は、例年の同時期に比べ発生が多くなっているため、圃場をよく観察し、防除適期を逃さないように注意する。
- ③ 薬剤は、表1を参考にし、幼虫が生息する葉裏までよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。

表1 サツマイモ（かんしょ）のナカジロシタバ防除に使用できる主な薬剤

（令和6年6月12日現在）

薬剤名	希釈倍数 ¹⁾	使用時期	本剤の使用回数	有効成分名	同左毎の総使用回数	IRAC ²⁾ コード
マッチ乳剤	2,000～3,000倍	収穫14日前まで	2回以内	ルフェヌロン	2回以内	15
アクセルフロアブル	1,000～2,000倍	収穫前日まで	3回以内	メタフルミゾン	3回以内	22B
アニキ乳剤	2,000～3,000倍	収穫前日まで	3回以内	レピメクチン	3回以内	6
オリオン水和剤40	1,000倍	収穫前日まで	5回以内	アラニカルブ	5回以内	1A
ディアナSC	2,500～5,000倍	収穫前日まで	2回以内	スピネトラム	2回以内	5
フェニックス顆粒水和剤	2,000～6,000倍	収穫前日まで	2回以内	フルベンジアミド	2回以内	28

1) 使用方法「散布」の登録内容

2) 殺虫剤抵抗性対策委員会（IRAC）により、殺虫剤の有効成分を作用機構により分類し、コード化したもの

（注意事項）

- ・農薬を使用する際は、農薬ラベルに記載されている使用基準、注意事項を必ず確認のうえ使用する。

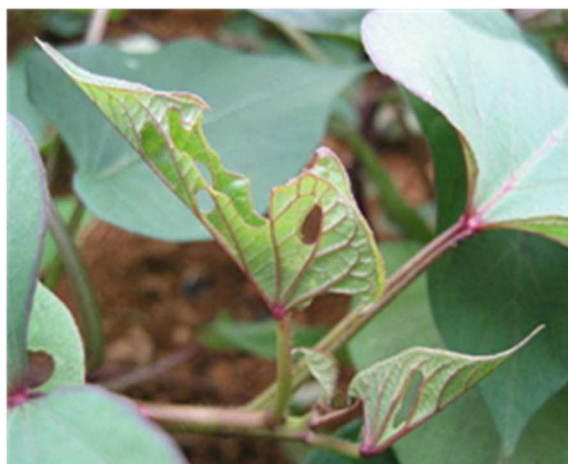


写真1 ナカジロシタバによる初期被害



写真2 ナカジロシタバ中齢幼虫